株式会社セキュア（証券コード：4264）

2026年12月期第3四半期決算説明資料
FY2026 Q3 Financial Results Presentation

売上高 前期比＋32%　営業利益 前期比+41%で着地
フィジカルAIインフラカンパニーを目指し事業基盤を拡大

＜戦略的提携とグループシナジーで、中長期の成長を力強く牽引＞

SECURE

Company
SECURE Inc.

Ver.
2026/11/12

2026年12月期 第3四半期ハイライト

FY2026 Q3進捗

売上高

6,570百万円

前年同期比 +32.8%

進捗率※ 71.4%

営業利益

290百万円

前年同期比 +41.7%

進捗率※ 72.6%

*進捗率は2026年11月12日発表の業績予想に対する進捗率

- ✓ 売上高は需要拡大に伴い各サービスが増収したことにより、前年同期比＋32.8％で着地
- ✓ 販管費は採用を中心とした人件費関連の先行投資、およびM＆A関連の一過性費用により増額、TOUCH TO GO（以下、TTG）の赤字を取り込むも営業利益は290百万円と前年同期比+41.7%の着地
- ✓ TTGは4月1日付で連結子会社化、人手不足が深刻化する小売業界に向けた無人化・省人化ソリューションの提供を加速　＜P/LはFY2026/Q3から連結＞
- ✓ テスコムジャパン7月1日付で連結子会社化、ハードウェアの設計・製造機能を内製化し、AI × 決済 × ハードウェアの一体開発を加速　＜ P/LはFY2026/Q4から連結＞
- ✓ 10月に日東通信の子会社化を発表（株式取得は12月18日予定）、東北地域の施工・保守体制の拡充と専門人材を取り込みグループ全体の技術力強化を図る　＜ P/LはFY2027/Q1から連結＞

FY2026 見通し

売上高累計

9,200百万円

前年同期比 +34.5%

営業利益累計

400百万円

前年同期比 +22.7%

- ✓ 売上**82億円→92億円**へ上方修正
  営業利益**6.2億円→4億円**へ下方修正
- ✓ 一定の利益を残しつつPMIや来期以降の成長に向けた投資（2.2億円）を実行
  - ・M&Aに関する一過性費用 93～113百万円
  - ・TTGの赤字75～95百万円
  - ・新たに発生したのれん償却費用等32百万円
- ✓ 物理セキュリティからフィジカルAIインフラカンパニーを目指すため事業基盤を拡大

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2026年12月期 第3四半期連結業績サマリー

売上高は前年同期比＋32.8%の成長、M＆A関連の一過性費用およびTTGの赤字を取り込むも
営業利益は前年同期比＋41.7%増益の290百万円で着地
親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失の計上により一時的に押し下げられたものの、本業収益基盤の変動はなし

（百万円）	FY2025 Q3実績	FY2026 業績予想*	FY2026 Q3実績	前期比（FY25-26比較） 増減額	前期比（FY25-26比較） 増減率	業績予想※ 進捗率
売上高	4,948	9,200	**6,570**	+1,621	+32.8%	71.4%
SECURE AC（入退室管理システム）	1,353	-	**1,806**	+452	+33.5%	-
SECURE VS（監視カメラシステム）	3,035	-	**3,862**	+826	+27.2%	-
SECURE Analytics（画像解析サービス/その他）	188	-	**436**	+248	+132.1%	-
SECURE ES（エンジニアリングサービス）	371	-	**464**	+93	+25.2%	-
売上総利益	2,035	-	**2,667**	+631	+31.0%	-
販売管理費	1,831	-	**2,376**	+545	+29.8%	-
営業利益	204	400	**290**	+85	+41.7%	72.6%
営業利益率（%）	4.1%	4.3%	**4.4%**	+0.3pt	-	-
経常利益	187	365	**269**	+81	+43.6%	73.7%
税引前当期純利益	187	-	**227**	+40	+21.5%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	104	未定	**124**	+20	+19.2%	-

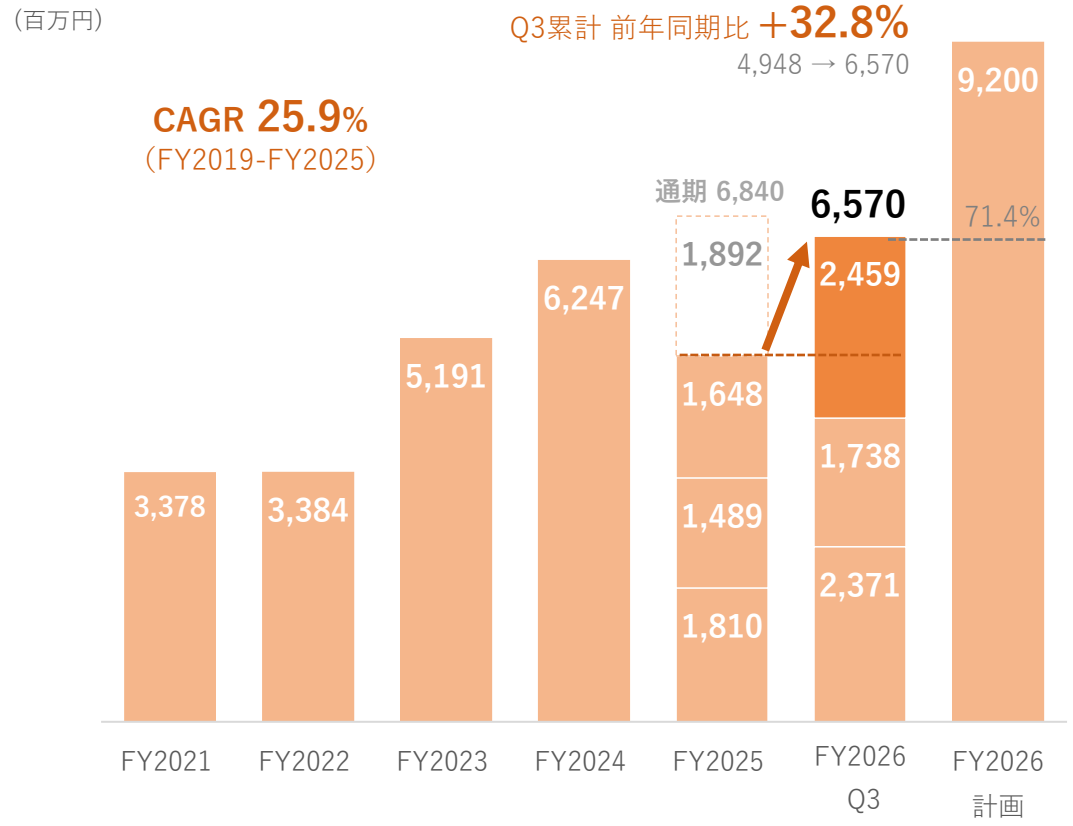
© SECURE Inc. All Rights Reserved.

※1 業績予想は2026年11月12日発表　※2 第2四半期において投資有価証券評価損を41百万円計上

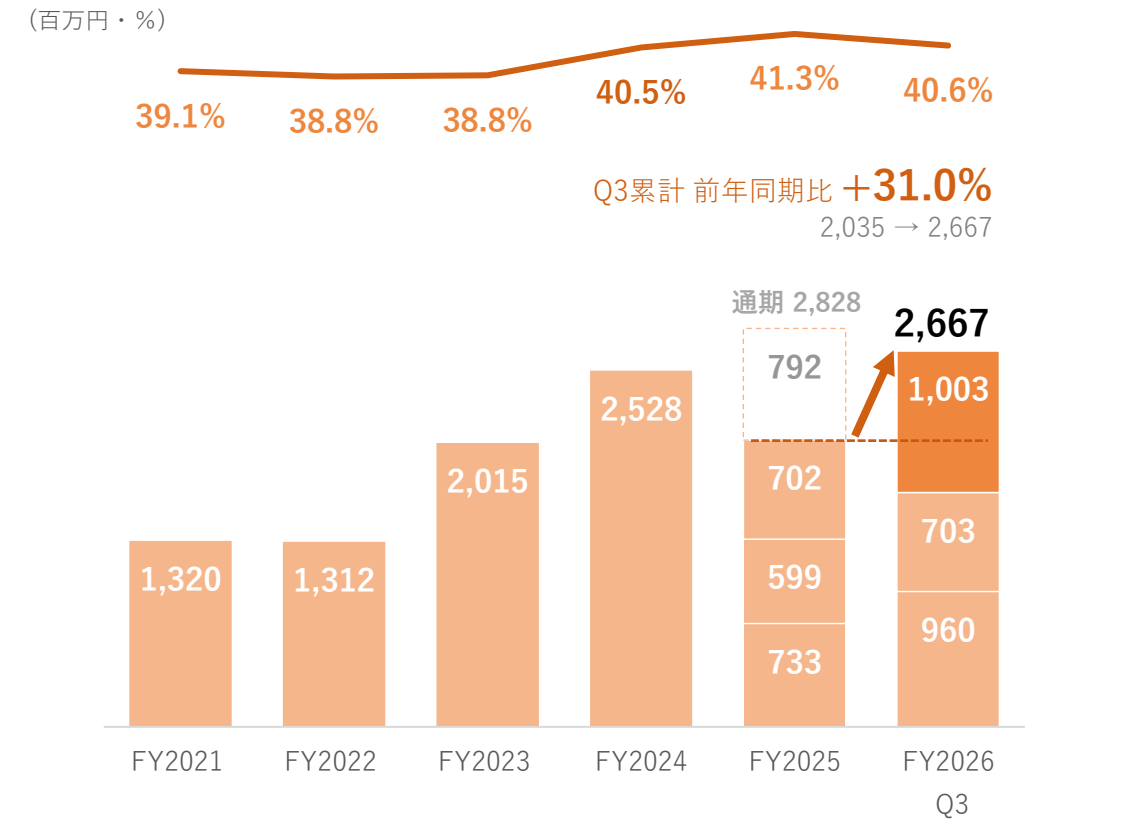
2026年12月期 第3四半期全体売上・売上総利益

Q３よりTTGのP/L連結の開始、売上高は前年同期比＋32.8%、売上総利益は+31.0%で着地
売上総利益率は、為替・インフレ等の外部要因があるも40%台を維持

売上高



売上総利益・総利益率



© SECURE Inc. All Rights Reserved.

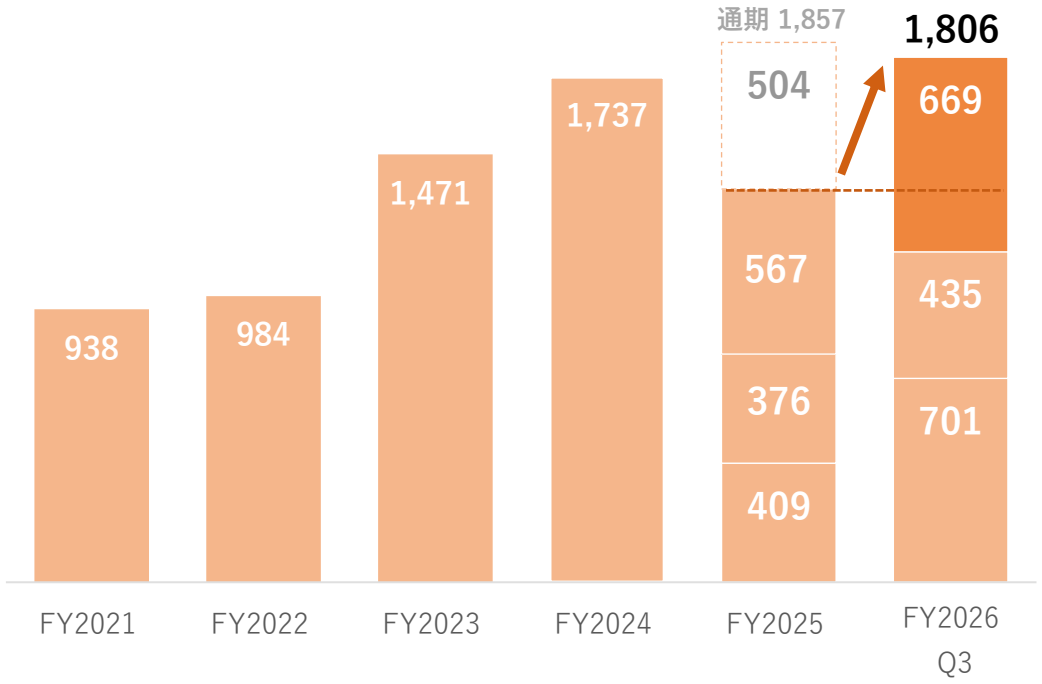
「SECURE AC」業績推移

Q２に引き続き大型案件の納品が寄与し、前年同期比＋33.5%増収で着地
大型案件へのシフトにより、導入件数が前年同期と比べ減少も、案件単価は上昇

売上高

（百万円）

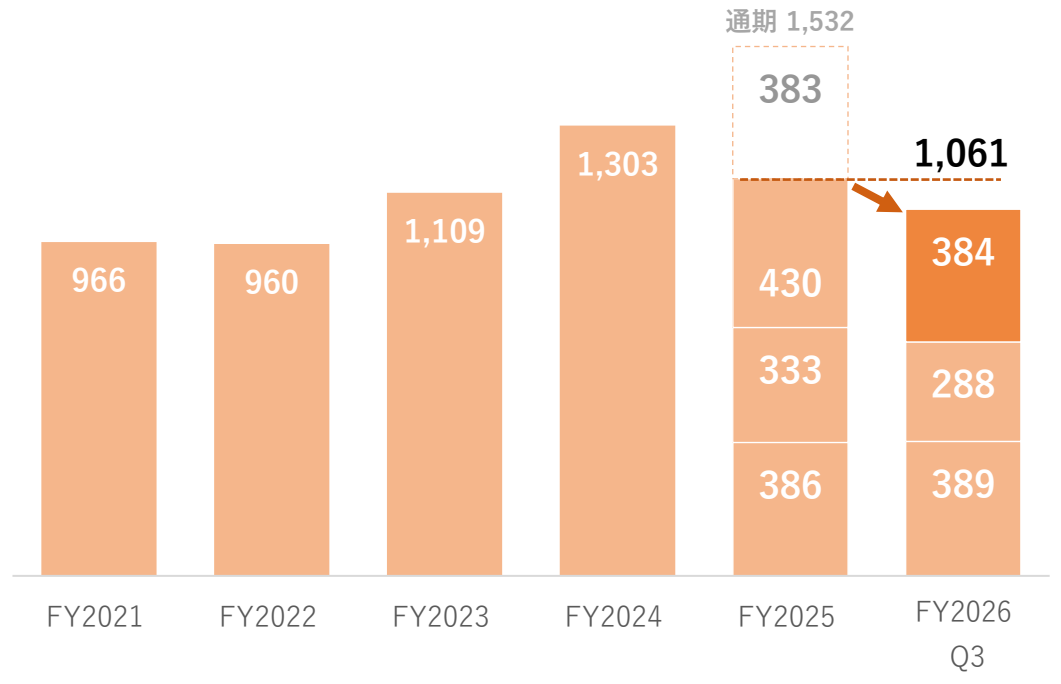
Q3累計 前年同期比 **+33.5%**
1,353 → 1,806



SECURE AC　導入件数

（件）

Q3累計 前年同期比 **△7.7%**
1,149 → 1,061



© SECURE Inc. All Rights Reserved.

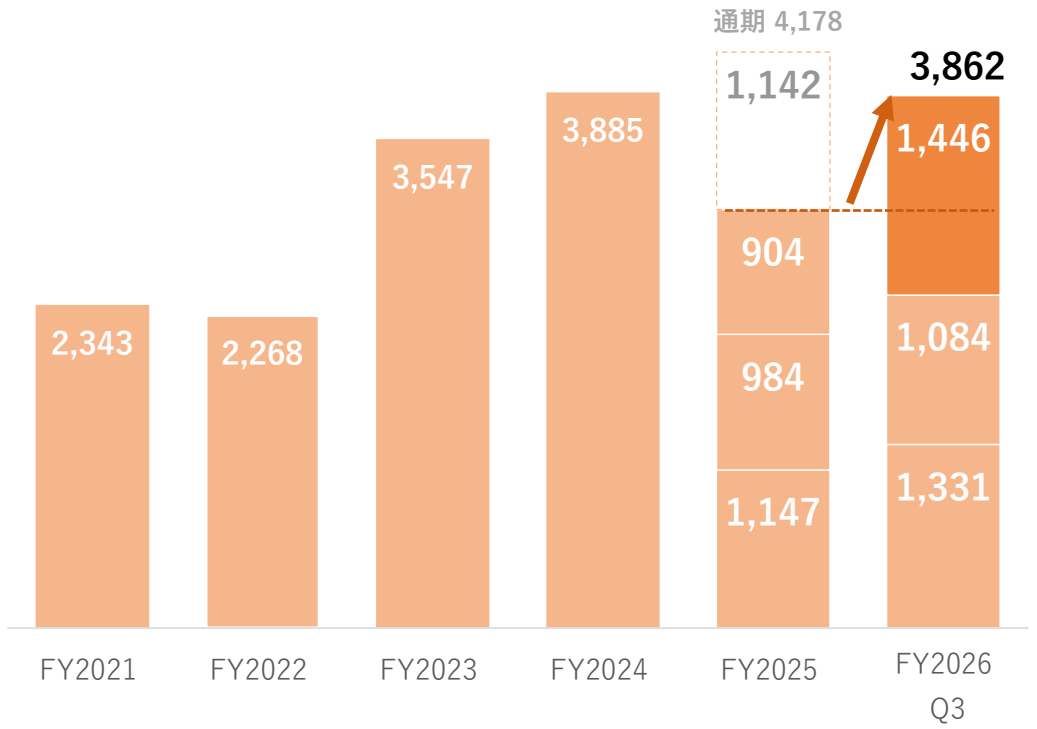
「SECURE VS」業績推移

Q２に続き物流施設・工場・大型商業施設等の大型案件が寄与し、前年同期比＋27.2%増収で着地
導入件数は横ばいだが、前年の特殊小規模案件の反動によるものであり、マーケットは引き続き堅調

売上高

(百万円)

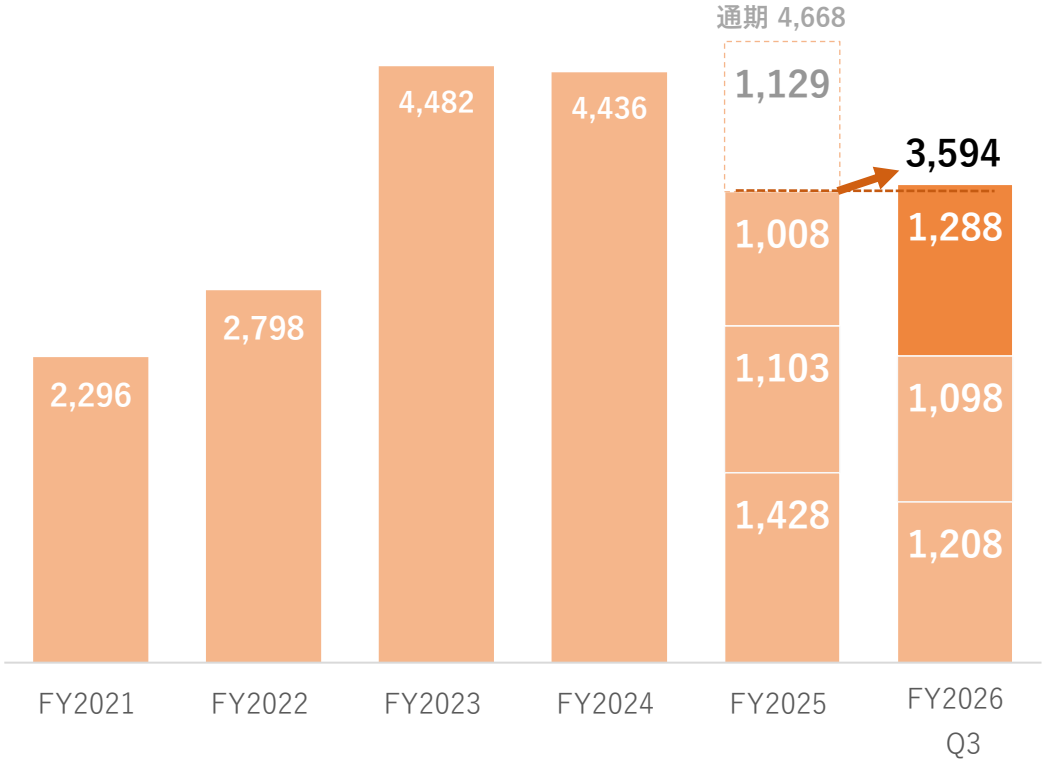
Q3累計 前年同期比 +27.2%
3,035 → 3,862



SECURE VS　導入件数

(件)

Q3累計 前年同期比 +1.6%
3,539 → 3,594

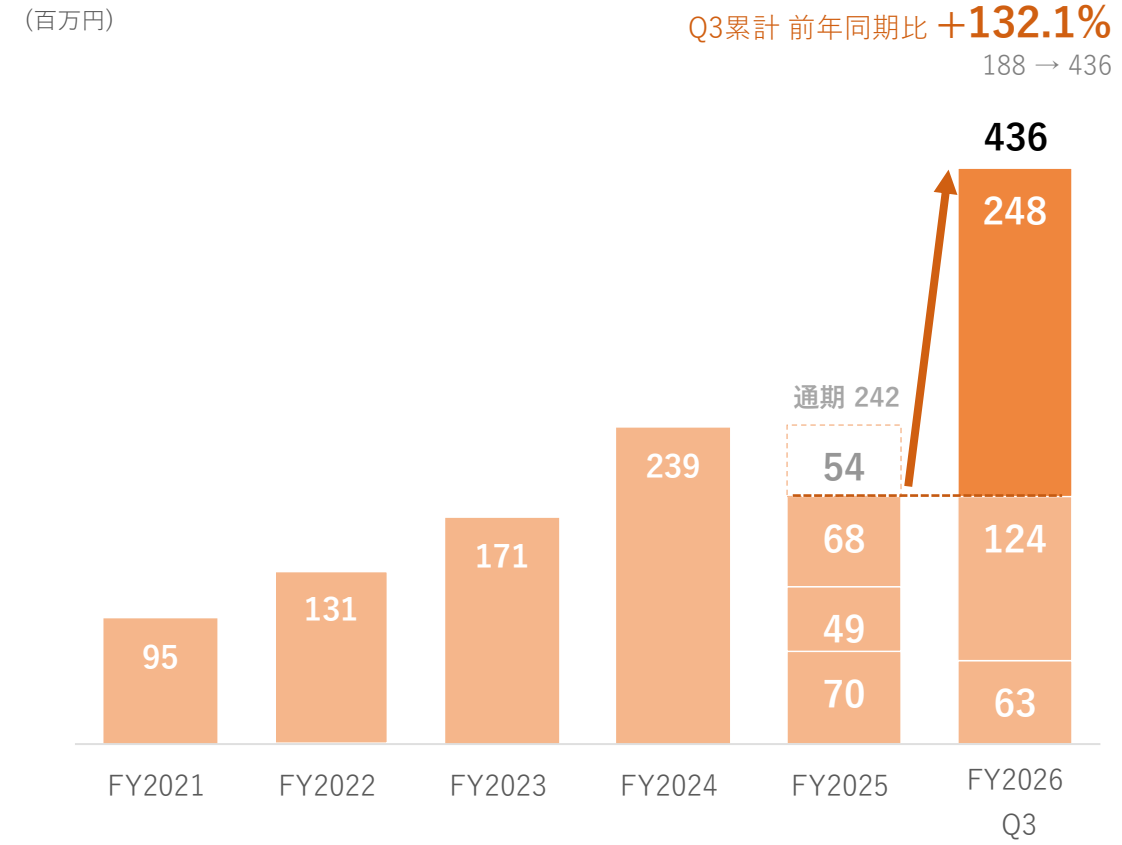


© SECURE Inc. All Rights Reserved.

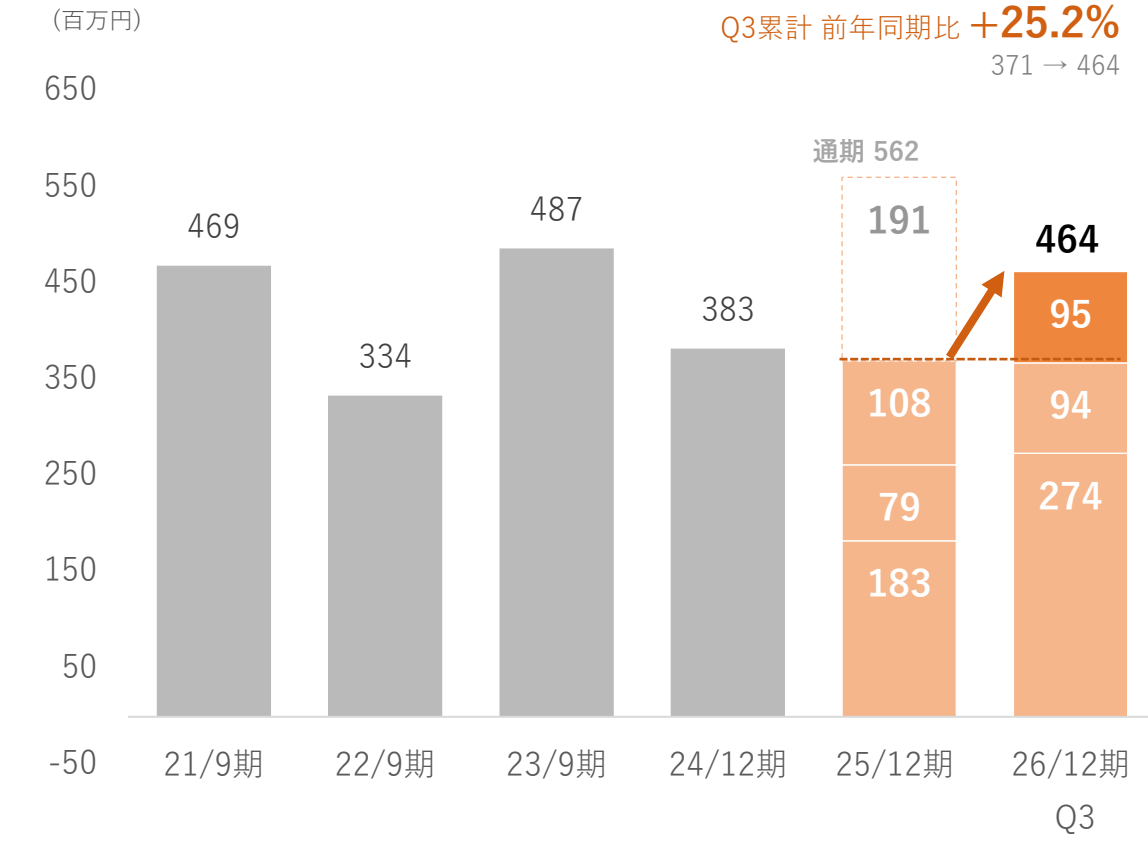
「SECURE Analytics/その他、SECURE ES」業績推移

AnalyticsはTTGの連結開始により前年同期比＋132.1%増収での着地
SECURE ESは前年Q3以降のメディアシステムの取込みもあり増収で着地

SECURE Analytics / その他　売上高



SECURE ES 売上高

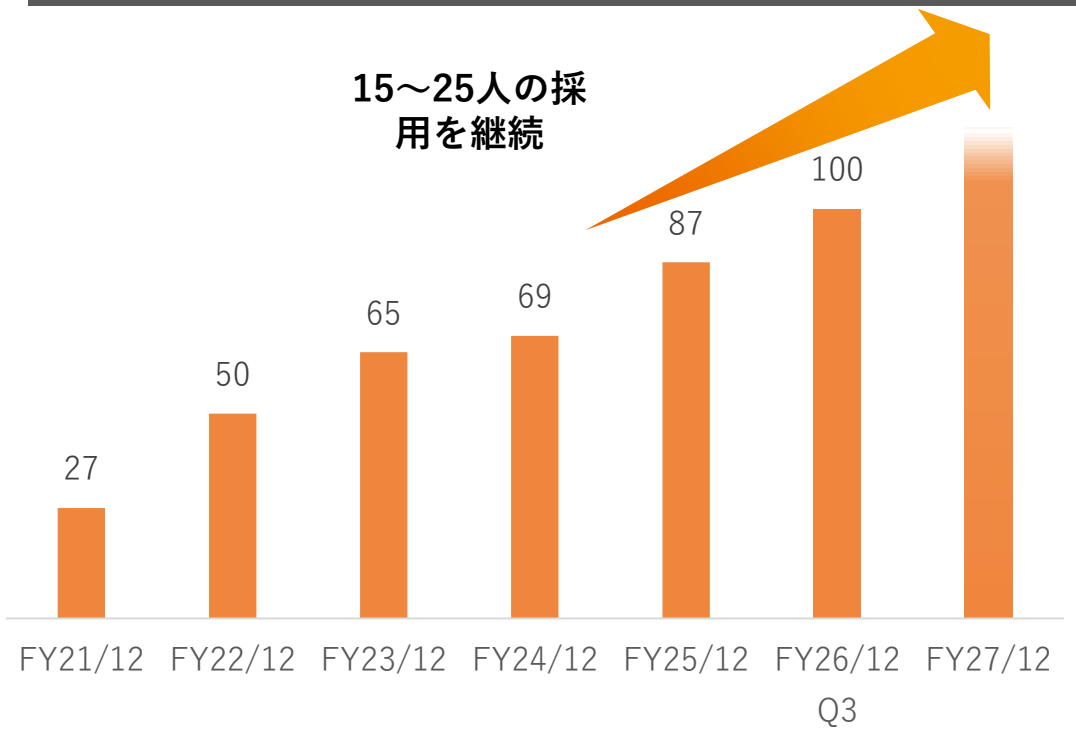


© SECURE Inc. All Rights Reserved.

事業の進捗状況　セールス・マーケティングの強化

新規採用は前期末比で13名の純増となり、セールス・マーケティング人員100名体制を構築
今後も引き続き新規採用は継続しつつ、AI活用により生産性・スキルの向上を図る

セールス・マーケティング人員数推移



セールス人員の成熟化までは約1.5～2年先んじて採用を行い、業績拡大に繋げる

拠点拡大



- 22年7月名古屋オフィス開設（現 名古屋営業所）
- 23年1月大宮・横浜オフィス開設
- 23年4月広島オフィス開設
- 24年7月札幌オフィス開設
- 25年4月仙台オフィス開設

基盤強化



- マーケティング活動の強化
- Security System Labにおける独自の教育制度
- 採用力の強化

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

業績予想の修正　2026年12月期

TTG（4月に子会社化）、テスコムジャパン（7月に子会社化）、日東通信（12月に子会社化予定）の影響を業績に反映
親会社株主に帰属する当期純利益は各社の繰延税金資産の回収可能性について検討を継続しており、合理的な見積もりが可能となった時点で速やかに開示を予定

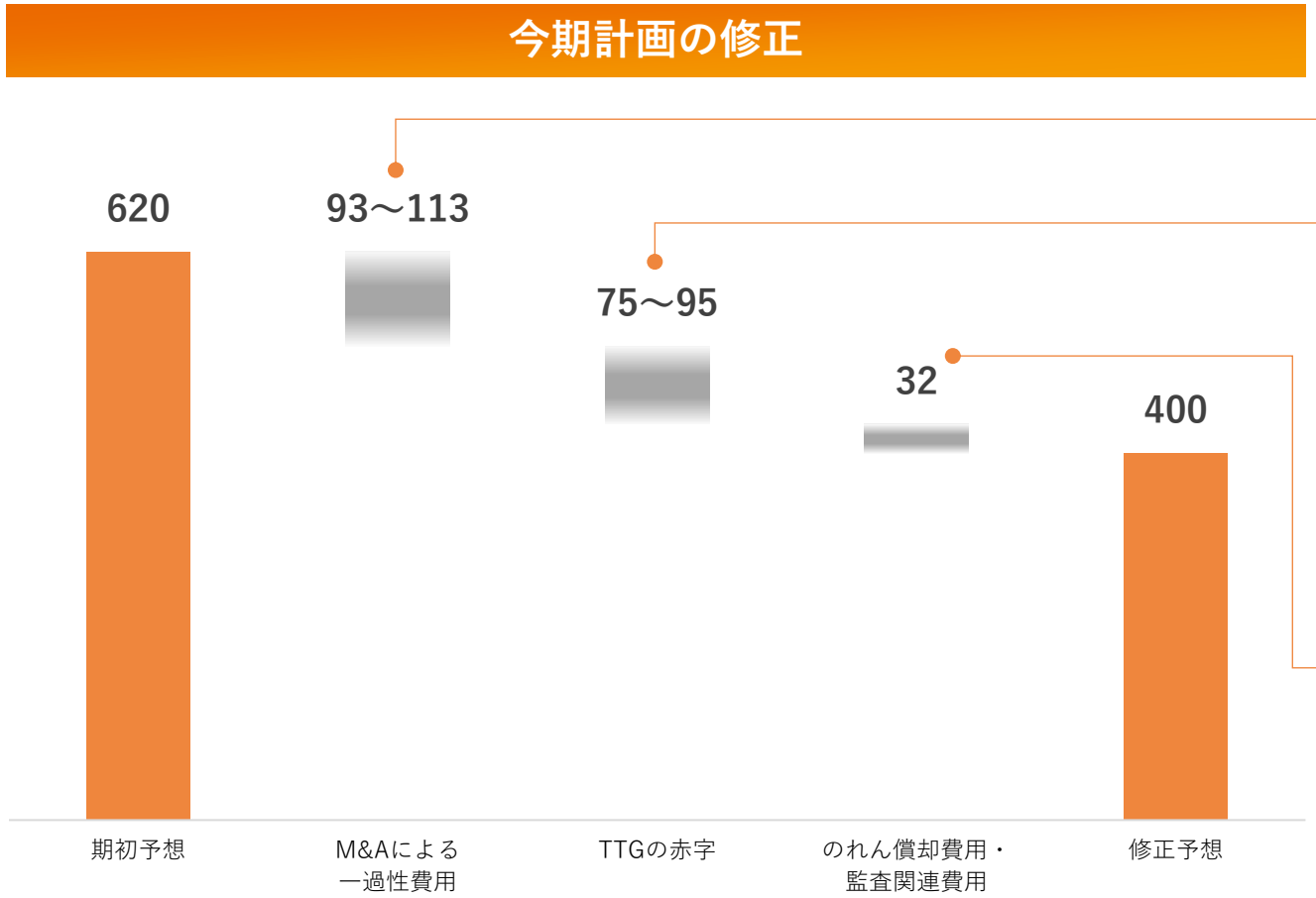
（百万円）	FY2025 実績	FY2026 Q3実績	FY2026業績予想 修正前*	FY2026業績予想 修正後**	FY2026業績予想 修正額	修正後対前期比 増減率
売上高	6,840	6,570	8,206	**9,200**	＋994	＋34.5%
SECURE AC（入退室管理システム）	1,857	1,806	-	-	-	-
SECURE VS（監視カメラシステム）	4,178	3,862	-	-	-	-
SECURE analytics（画像解析サービス /その他）	242	436	-	-	-	-
SECURE analytics（画像解析サービス /その他）	562	464	-	-	-	-
営業利益	326	290	620	**400**	△220	+22.7%
営業利益率（%）	4.8%	4.4%	7.6%	**4.3%**	-	-
経常利益	299	269	600	**365**	△235	+21.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	187	124	410	**未定**	-	-

*修正前業績予想は2026年2月13に発表　/　**修正後業績予想は2026年11月12日に発表

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2026年12月期営業利益の修正要因について

2026年12月期営業利益計画を下方修正
期初予想と比較して未達の着地となるも、多くはM&Aに起因する一過性費用や投資フェーズにあるTTG赤字の影響



TTG, テスコムジャパン、日東通信のM&Aに関する各種費用（手数料・DD費用等）：93～113百万円

- **2027年12月期は剥落予定**

投資フェーズにあるTTGの赤字：75～95百万円

- **2027年12月期には赤字縮小予定**
- **43.8%分は非支配株主持分**
- **単月黒字を目指す**

M&Aにより新たに発生したのれん償却費用・監査関連費用合計：32百万円

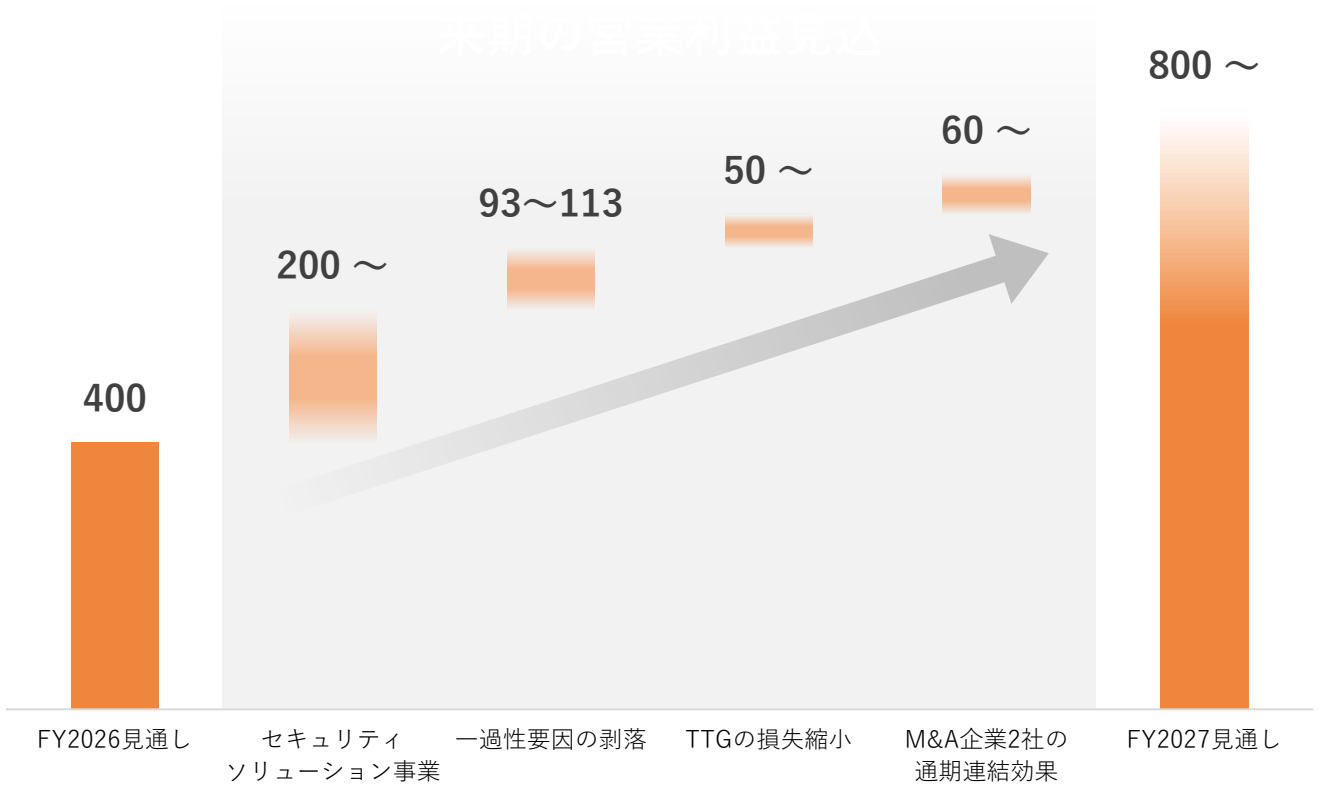
- **2027年12月期以降も一定期間にわたり計上**

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2027年12月期業績見通しについて

2027年12月期は一過性要因の剥落やセキュリティソリューション事業のオーガニック成長に加え、
TTGの損失縮小、2026年12期にM&Aした企業の通期連結寄与により、営業利益で8億円以上の達成を目指す

来期の営業利益見込



- セキュリティソリューション事業におけるオーガニックの事業成長
- TTGの損失縮小及び今期にM&Aした2社（テスコム・日東通信）の業績が通期連結されることによる貢献

2027年12月期は営業利益で8億円以上を目指す

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

04

01　会社概要
02　業績ハイライト（FY2026 Q3）
03　業績見通し（FY2026）
04　フィジカルAIインフラカンパニーへ
05　Appendix

フィジカルAIインフラカンパニーへ

フィジカルAIインフラカンパニーへ

物理セキュリティで培った実装力と新たにM&A・資本業務提携で獲得した機能を基盤に、
2027年12月期以降、**フィジカルAIインフラカンパニー**へと変化・飛躍を図る

出発点｜既存の強み

**物理セキュリティの
ソリューションカンパニー**



ソフトウェア
映像管理・分析・クラウドサービス

ハードウェア
カメラ・センサー・IoT機器

AI技術
行動認識・異常検知

M&A・資本業務提携による事業基盤の拡充

**2024 - 2026年にかけて、
M&A 5件・資本業務提携2件を実施、
フィジカルAIの実装に必要な機能を
獲得・強化**

M&A実績	資本業務提携
TTG / TESCOM CCTV SYSTEM SOLUTION	BUFFALO
JTN / MEDIA SYSTEM メディアシステム	RICOH
Idealize Technology 日東通信株式会社 Switch to the Next Generation Network	

目指す姿

フィジカルAI
インフラカンパニーへ

**AI×ハードウェア×現場実装により
社会・産業のあらゆる物理空間にAIを
実装するために必要な要素を提供**



フィジカルAIが求められている社会的背景

人手不足による現場の省人化・
効率化ニーズの拡大

適用領域の例 小売 介護 医療 飲食 警備 …

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

セキュアが考えるフィジカルAI市場の構造と社会課題

現実空間をカメラで認識し、AIによる解析・判断を通じてロボットや機械を動かす「フィジカルAI」。
今後は、**カメラシステムがOS的役割を担うことから、物理セキュリティ構築の技術・ノウハウや店舗無人化等の実績**を活かし、**フィジカルAIインフラカンパニー**として深刻化する労働供給不足など社会課題の解決を目指す



フィジカルAIで解決を目指す社会課題

全国の労働供給不足（予測）

2030年 約 **342** 万人 ▶ 2040年 約 **1,100** 万人

関連する現場の職種別労働供給不足（予測）

引用:『未来予測2040』（リクルートワークス研究所）

職種	2030年	2040年
商品販売（小売・店舗）	約 40.2 万人	約 108.9 万人
介護サービス（介護施設）	約 21.0 万人	約 58.0 万人
接客給仕・飲食物	約 17.9 万人	約 56.6 万人

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

フィジカルAIインフラカンパニーへのトランスフォーメーション

現在は物理セキュリティ及びリテールAIへの展開を行うが、中長期的にはより広い領域への事業展開を目指す
事業展開に必要な共通基盤であるインフラエンジニアリング機能のリソース確保と内製化を図り、事業全体の収益力も強化

物理セキュリティ

セキュリティソリューション



- 監視カメラ・入退室管理
- AI画像認識による異常検知

警備DX／ロボット





フィジカルAIの活用領域



リテールAI

- 無人決済
- 店舗運営の省人化
- オペレーション効率化



介護・医療



工場・製造現場



物流施設

現場実装を支える共通基盤

インフラエンジニアリング



- 現場への実装
- インストレーション

将来的に人手不足が予想される分野
内製化による収益力強化

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

リテールAIの事業展開例

当社が建物全体に導入したカメラ・センターで、「どこで」「なにか」起きているかを把握
「カメラ・センサー」と「人」、そして、「フィジカルAI」をつなぐ役割を担う

STEP ①
無人店舗ソリューション





TOUCH TO GO

セキュア、TTGのタッグで様々な規模・
業種にアプローチが可能。
小売店舗の無人化・省人化に関する
ソリューションを提供。

STEP ②
（カメラ+インカム）× 人への実装



アルバイトなどの手荷物検査を自動化
異常時のみの通知で管理者の手間を削減



接客に際して、お客様からの質問を
検知。回答などについてインカム
から支援。（現在開発中）



STEP③
フィジカルAIとの連携



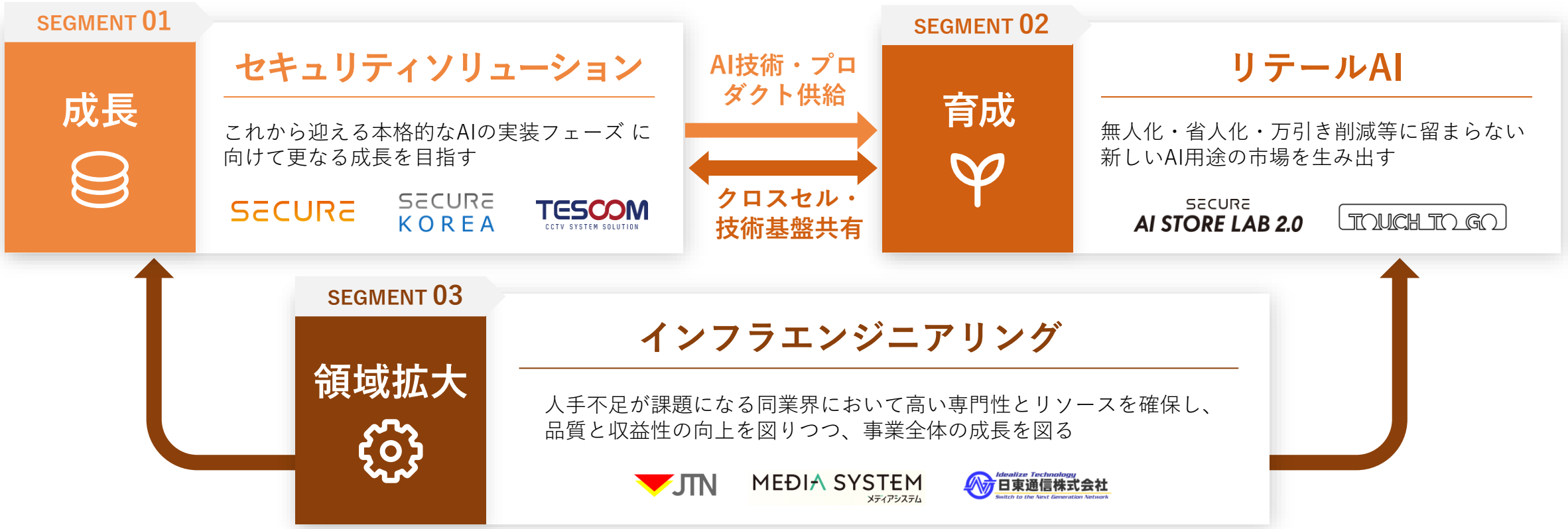
例）

- 棚の前の決まった位置で、台車から商品を取り、空き棚に陳列。
- 夜間に届いた荷物を、売り場の近くまで運搬する。

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2027年12月期から開示予定のセグメント

2027年以降は、セキュリティソリューション、リテールAI、インフラエンジニアリングの3セグメントで開示する方針
セキュリティソリューションで更なる成長を実現し、その収益基盤のもと、リテールAIを次の成長ドライバーへと育成
インフラエンジニアリングの内製化により、収益領域の拡大・成長を図る



3つのセグメントがシナジーを発揮し高め合うことで、唯一無二のフィジカルAIインフラカンパニーを目指す

© SECURE Inc. All Rights Reserved.